

M O N T H L Y

vol.55

U P

PDFにも国際基準を。

印刷用入稿データも、 グローバルスタンダードの時代です。

印刷ワークフローデジタル化において、PDF/Xは避けては通れない課題のひとつ。
いま、印刷に適したPDFとして、PDF/Xが大きな注目を集めています。

商品カタログやプレスリリースのダウンロード、社内や取引先とのデータのやり取りにおいて、普段から何気なく利用しているPDF。このPDFについては、あらためて説明するまでもないかもしれません。データ作成に使われたアプリケーションやプラットフォームを問わず、オリジナル通りにデータを再現できるファイルフォーマットのことです。

PDFは登場以来、印刷用入稿データとしての役割を期待され続けてきました。しかし、あらゆるデータをPDFにすることができる、という汎用性の高さが入稿データとしては混乱を招くこととなります。そこで、印刷用に特化したガイドラインを設けたものが、PDF/X (Portable Document Format eXchange) です。

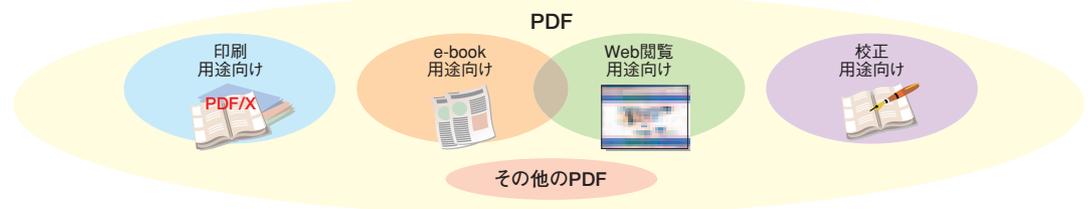
名前だけ見るとPDFの新しいバージョンのようですが、PDF/XはPDFの規格のひとつです。入稿の際、トラブルになりやすいカラーやフォント、トラッピングなどの要素を確定したものです。PDF/Xの仕様はISOにより規定され、世界標準の基準となっています。

ひとくちにPDF/Xといっても、PDF/X1-aやPDF/X3、

PDF/X-Plusなど、用途に応じていくつかの規格があります。たとえばPDF/X1-aの場合、PDFのバージョンは1.3、CMYKおよびスポットカラーを使用、フォントが埋め込まれている、トラッピングの有無を記載するなどの制約が定められています。PDF/Xといえば、このPDF/X1-aが日本国内で最も普及しており、一般的な存在。印刷用入稿データのスタンダードになりつつあります。

PDF/X1-aのメリットとして、フォントの有無やアプリケーションのバージョンの違いなどによる出力結果の変化がないため、データチェック作業の軽減が可能です。ただ安全性が高い反面、完璧なデータで入稿しないと、画像の解像度が足りず印刷物の写真が粗くなるなど、品質保証面での注意点も少なくありません。

今後はRGBにも対応できるPDF/X3、PDF/X1-aの弱点を克服したPDF/X-Plusへと、PDF/Xの可能性は広がっていくと思います。印刷ワークフローデジタル化において、PDF/Xはますます重要になってくるでしょう。





<http://www.sezax.co.jp>

□本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2511(代)	FAX 03 (3758) 2754	
		営業専用	FAX 03 (3758) 2544	
□渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL 03 (3400) 9211(代)	FAX 03 (3409) 7315	
		5F	TEL 03 (3400) 9401(代)	FAX 03 (5468) 9253
□マニュアル企画部	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2591(代)	FAX 03 (5482) 2777	
□下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL 03 (3758) 2516(代)	FAX 03 (3758) 8850	

株式会社セザックスクリエイティブ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970(代) FAX 03 (3409) 2732

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 0527(代) FAX 03 (3409) 6610



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。

この小冊子は再生紙を使用しています。